

## でんでんむしの赤ちゃんが産まれたよ！

岡崎市城北保育園(愛知県岡崎市)

[3歳児]

[事前の体験]クラスでダンゴムシを飼育し、体験したこと(5月)




ダンゴムシを捕まえられるようになり、感触や丸くなることなどを実感した。

色や模様の違いに気付き、ダンゴムシの絵本も楽しむことで、オスメスの区別ができるようになる。

脱皮に気付き、絵本と見比べたり友達と発見の喜びを共感したりする。

ダンゴムシの赤ちゃんを発見し、虫眼鏡で見たり絵本と見比べたりして喜んで見る。

### 事例 でんでんむしのあかちゃんが産まれたよ

子どもの姿	保育者の援助
<p><b>でんでんむしの卵を見つけたよ</b>(6月中旬)</p> <p>飼育ケースを覗いた子どもたちが、カタツムリの卵を発見する。</p> <p>何度も見て「まだ産まれてなかった！」と報告する。</p> 	<p>卵がかえることは難しいと聞いたため、子どもたちが必要以上に霧吹き等しすぎないように知らせる。</p> <p>興味を持続させられるよう「赤ちゃん産まれるといいね」「早く見たいね」などと、子どもの気持ちに共感する。</p> <p>大切に世話をする姿を見せるようにする。</p>
<p>他の生き物の赤ちゃんにも敏感に反応するようになり、青虫のお腹についていた粒(寄生虫)も「卵」だと思い喜ぶ。以前にも増して絵本や図鑑で、カタツムリの赤ちゃんを眺め、楽しみにしている子が多かった。進んで世話をしようとするが、他児が霧吹きをしたことを伝えると我慢できる子がいた。</p>	<p>赤ちゃん誕生の喜びに共感し、会話を楽しみながら、成長するために必要な事柄について投げかけてみる。</p> 
<p><b>でんでんむしの赤ちゃん誕生!!</b>(6月下旬)</p> <p>A児「卵が開いた」</p> <p>B児「動けるの?」</p> <p>C児「赤ちゃん、ご飯食べる?」</p> <p>B児「見て!1匹 でんでんむしむし してるよ」とわらべ歌を歌う。</p> <p>動いているカタツムリを真似てわらべ歌を歌う姿もある。</p> <p>保:「大きくなるためにはどうしたらいいかな?」</p> <p>子:「おっぱい」「触らない」</p>	<p>一緒に見る。</p> 
<p>7月中旬</p> <p>B児は、カタツムリが大好きで毎日観察している。</p> <p>「先生!カタツムリが抱っこしてる。甘えてるんだね」</p> <p>「おっぱい飲んでるのかなあ」</p> <p>(大きいカタツムリと赤ちゃんカタツムリが寄り添っている)</p>	



[考察] 赤ちゃんが大きくなるにはおっぱいが大事なんだという認識は、カタツムリも僕も同じという3歳らしい意見だと感じた。

「触らない」という答えは、ダンゴムシの赤ちゃんが、触ったことで死んでしまったために出てきた意見ではないかと思う。

両者共、自分の今までの経験から答えを考え、言葉で表現できるようになった表れだと感じられた。常に自分に重ねて観察している様子を感性豊かに表現している様子がうかがわれた。

### みどころ

3歳児なりにしっかりとダンゴムシにかかわったことで、様々な発見をする喜びや小さな生き物とのかかわり方を実感しました。その体験がカタツムリの飼育にも生きています。温かで細やかな毎日の観察により卵や赤ちゃんの発見に結び付いています。保育者が子どもと一緒に丁寧に世話をし、きれいな棲みやすい環境でカタツムリが元気に活動できたことも要因になっていると思います。